

日本臨床検査医学会ニュース

日本臨床検査医学会 平成 23 年度 第 1 回
理事会 だより

日 時：平成 23 年 3 月 27 日(土) 12:00~15:00

場 所：学士会館 2F 202 号室

東京都千代田区神田錦町 3-28(〒101-8459)

出席者：宮澤幸久委員長，高橋伯夫副委員長，
村田満会計理事，矢富裕総務担当理事，
米山彰子庶務理事，宮地勇人，登 勉，
村上正巳，前川真人，ノ谷直人，渡邊直樹，
尾崎由基男，北島勲，岡部英俊，山根誠久
理事

中原一彦，一山 智 監事(17 名)

小出典男 学術集会長(第 58 回)

蛤谷国男 会計顧問 陪席

欠席者：諏訪部章，賀来満夫，

日野田裕治 理事(3 名)

会に先立ち，名誉会員の小林利次先生(平成 22 年 12 月 10 日逝去 享年 77 歳)，江部充先生(平成 23 年 3 月 3 日 享年 89 歳)，功労会員の巽典之先生(平成 22 年 11 月 18 日逝去 享年 73 歳)の逝去を悼み黙禱が捧げられた。その後，宮澤幸久理事長の挨拶があり，ノ谷直人理事，山根誠久理事を議事録署名人に定めて理事会の議事を進めた。

【報告事項】

1. 支部報告

各支部報告の支部例会・総会予定，支部地方会予定，支部役員の交代，支部での検査関係の教授，部長，技師長，の退任・新任等について報告された。

2. 委員会報告

A. 学術推進委員会(矢富 裕 担当理事)

1. 学術推進プロジェクトに選ばれた 5 プロジェクトに対し，2 年度目の基金を支給した。

2. 本年 11 月の岡山での日本臨床検査医学会で上記 5 プロジェクトの成果発表を行う予定である。

B. 編集委員会(矢富 裕 委員長)

平成 23 年度の学会賞優秀論文賞の選考を予定していることが報告された。

C. 臨床検査点数委員会(米山彰子 担当理事)

平成 23 年 2 月 28 日，日本臨床検査専門医会保険

点数委員会と合同開催された。

1. 平成 24 年度診療報酬改定提案書の作成について内保連第一次締め切り時(平成 22 年 12 月 10 日)の提出項目について報告があった(下記)。内保連の検査関連委員会生体検査 WG のコスト調査項目で，複数の委員の施設が協力した 5 項目(スパイログラフイー等検査，肺内ガス分布，肺胞機能検査，トレッドミルによる心肺機能検査，サイクルエルゴメーターによる心肺機能検査，終夜睡眠ポリグラフィー)を追加して提案した。今後，最終提案書(概要版・詳細版)を内保連に提出する予定である。

日本臨床検査医学会からの提案書

1. ティルト試験(未収載項目)
2. プロテイン S 活性測定(未収載項目)
3. 血管内皮機能検査(未収載項目)
4. 微生物学的検査(既収載項目)
5. 生理検査に係る乳幼児加算(既収載項目)
6. 生化学的検査(I)又は(II)に係る多項目包括規定の見直し(既収載項目)
7. 心電図，呼吸機能検査，超音波検査に係る夜間休日加算(既収載項目)
8. 結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロンγ測定(既収載項目)
9. スパイログラフイー等検査(既収載項目)
10. 肺内ガス分布(既収載項目)
11. 肺胞機能検査(既収載項目)
12. トレッドミルによる心肺機能検査，サイクルエルゴメーターによる心肺機能検査(既収載項目)
13. 終夜睡眠ポリグラフィー(既収載項目)
14. 削除項目の提案(既収載項目)

日本臨床検査専門医会からの提案書

1. 生理機能検査管理加算(未収載項目)
2. 血液採取(既収載項目)
3. 末梢血液像(既収載項目)
4. 尿沈渣顕微鏡検査およびフローサイトメトリー法による尿中有形成分測定(既収載項目)
5. 染色体検査(既収載項目)
6. 悪性腫瘍遺伝子検査(既収載項目)
7. 時間外緊急院内検査管理加算(既収載項目)
8. 血液細胞核酸増幅同検査，Major bcr-abl mRNA 核酸増幅検査，免疫関連遺伝子再構成

WT1mRNA 核酸増幅検査, CK19mRNA, UDP
グルクロン酸転移酵素遺伝子多型(既記載項目)
なお, 「血管内皮機能検査(未記載項目)」について
は, 関連学会の動向をみて再検討することとなった。

2. 臨床検査振興協議会活動について

ワーキンググループ A/C は, 平成 22 年度診療報酬改定で増点されなかった項目, 増点が不十分であった項目について, 日本臨床検査医学会, 日本臨床検査専門医会と協力して増点を要求する。裏付け資料として, 有用性調査ならびにコスト調査を実施している。いずれも 3 月中にまとめ, 結果を内保連への提案書にも反映させる。ワーキンググループ B は, 時間外緊急院内検査迅速加算について, ワーキンググループ D は, 検査試薬の技術と診療報酬について検討している。また振興協議会は 4 月上旬に厚労省との勉強会の開催を予定している。

3. 内保連の活動について

・検査関連委員会の生体検査コスト調査結果について

米山委員長が中心となり内保連加盟団体で参加を募り, 29 学会の賛同を得て生体検査 WG を立ち上げた。3 つのサブグループ(循環器, 呼吸器, 神経・精神)に分け, 各分野の相対的評価により増点希望項目を抽出した後, 特に増点を希望する項目につき, 36 施設の協力によりコスト調査を実施した。日本臨床検査医学会, 日本臨床検査専門医会からも多くの施設が協力した。調査項目は全て, 平均コストが保険点数を上回っており, 人件費すら確保できていない項目もあった。今後, 要望点数を決定して, 要望書に反映させるとともに, 内保連からの提言書としてとりまとめ, 厚労省に積極的に働きかける予定である。

・特定内科診療の新設について

内保連は, 内科系診療技術を診療報酬に反映させるために, 診療報酬点数表の上で外科系技術の反映である既存の「第 10 部 手術」に相当する新しい部, 「第〇部 特定内科系診療(仮称)」の新設を要望する方針である。今回は, 受け皿作りのため, 非専門家や一般の国民から見ても, 現行では著しく不合理であると考えられる疾患に絞って要望する予定

である。臨床検査にはなじまないものであるが, 内保連の方針として承知しておいてほしい。

D. 学会賞委員会(尾崎由基男 委員長)

平成 23 年度学会賞の募集要項, 募集及び選考日程, 本年から設けられた検査・技術賞についてあらためて報告された。

平成 23 年度学会賞選考日程

4 月 2 日: 評議員へメールで候補者推薦案内(臨床病理誌 3 月号, ホームページに掲載)

5 月 31 日: 学会賞候補者応募締め切り

6 月初旬~7 月中旬: 審査

7 月下旬: 理事長へ学会賞選考結果報告と理事会での学会賞受賞候補者の審議(持ち回り理事会)

8 月初旬~中旬: 受賞者への通知並びに受賞講演原稿依頼

8 月 21 日(日): 理事会, 理事会後正式審査結果通知

8 月 31 日: 学会賞各賞の抄録 臨床病理 補冊 原稿締切

11 月 18 日(金): 学会賞受賞講演; 第 58 回学術集会(岡山)

E. 標準化委員会(前川真人 担当理事)

標準化委員会で設定し, 理事会で承認された臨床検査値学生用共通基準範囲を, 臨床病理誌 58 巻 11 号とホームページに掲載したことが報告された。

F. 精度管理委員会(宮地勇人 委員長)

1. 2010 年度 CAP サーベイについて報告

1) 参加施設 97(新規 1, 中止 6 施設)

2) 「評価されない施設」対策(特に酵素項目)

下記対策実施により, 酵素 6 項目で, 改善効果が見られた(30/50→70%)

①検査結果の早期提出の啓発活動を行った。

②e-LAB Solutions 登録とデータ入力の啓発活動を行った。

《登録施設数》 97 施設中, 72 施設登録, 登録者 235 名

③自動分析グループの詳細な装置分類(一部 Model ごと)を統一した。

④各メーカーへの装置, 試薬などのコード登録を要請した。

2. CAP サーベイについて

1) 2011 年度 CAP サーベイ募集を開始し, 申し込み集計中。

2) 遺伝子検査の項目導入

3) サポート体制の充実

① e-LAB Solutions の適切な使用方法の訴求活動を推進する。

② 評価対象外を減らす活動の継続推進を行う。

4) 新規参加施設の参加に向けて

① 2007 年・09 年に参加取りやめた施設へ改善点を伝え、再加入を促進する。

② ISO15189 認定取得施設へ PT(技能試験:CAP サーベイ)の充実を求める。

③ 検査室の QMS 構築を進めている施設に対し、PT の活用方法を広める。

5) 広報

① 日本臨床検査学会学術集会でパンフレットを配布する。

② 日本臨床検査自動化学会学術集会でパンフレットを配布する。

③ 臨床検査室グローバルニュースへ広告や記事を掲載する。

6) 2012 年度からのオーダー体系の変更の準備

セットメニュー(A, A1-1・A1-9)でのオーダーを中止し、プログラムごとの参加とする。

E. EBLM 委員会(村上正巳 担当理事)

1) 2010 年第 2 回 EBLM 委員会 議事録

日時 : 2010 年 9 月 11 日(土)8:00~09:00

場所 : 京王プラザホテル 本館 47 階「あさひ」

出席 : 石田・市原・稲田・片岡・佐藤・西堀・三宅・山西・吉野, 村上(担当理事)

議事

○報告事項

(1) 市原委員長より、2010 年 2 月 21 日に虎の門病院で開かれたデータ解析研究会および 2010 年第 1 回 EBLM 委員会の報告があった。

(2) 市原委員長より、明日の EBLM セミナーの準備状況について報告があった。

○協議事項

(1) アジア地域基準範囲設定国際プロジェクトのデータベースの Web 利用システムの構築

・本プロジェクトは、国際的には IFCC の該当委員会、我が国においては EBLM 委員会の事業と位置づける

・採血条件、データ処理手順、トレーサビリティ等を完全に制御しユニバーサルに使えるデータを収集している

・将来的には欧米地域も巻き込むことを目指している

・Web 利用システムはオンデマンドで項目間の関係を解析できる機能を目玉としている

・実作業は市原委員長の所属教室で担当する

(2) EBLM 委員会監修の著作物出版の企画

・委員会活動のマイルストーンとするだけではなく、出版ルートに乗せ書店で販売することを優先する

・ターゲットは医学研究者におき、内容は臨床研究に役立つ統計上のノウハウに重点をおく

・基準範囲・基準値、方法間比較、分散分析法、検査の有用性評価法、多変量要因分析法(Cox 回帰を除く)を中心にとりあげ、基礎統計(有意差検定等)、因子分析や精度管理は省く

・片岡委員と佐藤委員に構成を立案して頂き、それをもとに出版社を探す

(3) 来年度総会の企画

・教育セミナーは継続を前提に、今年度の反応を見て内容を議論する

・今年度却下されたワークショップを改めて企画し予め総会長に説明しておく

・稲田委員と山西委員にワークショップの企画を立案して頂く

・検査統計のピットフォール、データ解析に関するホットな話題、アジア地域基準範囲設定国際プロジェクトのデータ解析で得られる新知見などを候補テーマとする

(4) メンバーの変更

・松尾取二委員が多忙を理由に今年度の委員就任を辞退された

(5) 次回委員会

・できれば年内または年始、次年度学会の計画、出版計画についてさらに討議するために委員会を開催する方向で検討する。

2) 日本臨床検査医学会第 57 回学術集会 EBLM 委員会教育セミナー

下記要領にて、教育セミナーを開催した。その評価は全般に好評であった。ただ、参加者が例年より少なかったのは、セミナーの公示が十分でなかったためと考えられ、次回は学会事務局とより細やかに連絡を取り、実施内容の周知を図る必要がある。

日時 : 平成 22 年 9 月 12 日午前 9 時~午後 3 時

場所 : 京王プラザホテル 本館 47 階「あおぞ

ら」

テーマ：臨床検査に必要な統計処理法の理論と使い方
の実際

参加者数：21名

司会 山口大学大学院医学系研究科 市原清志
国際医療福祉大学 西堀眞弘

9:00～10:10

1. 測定の不確かさの算出と検査値の変動要因の
解析法 (70分)

山口大学大学院医学系研究科 市原清志

10:20～11:30

2. 測定値の方法間比較のための統計処理法と使い
分けの実際 (70分)

千葉県救急医療センター 佐藤正一

11:40～12:20 (12:20～13:10 昼休み) 13:10～13:50

3. 臨床検査の診断的有用性の評価法 (80分)

大阪大学医学部附属病院 山西八郎

13:50～15:00

4. クラスタ分析による検査情報の分類と解釈
(70分)

高知大学医学部附属病院 片岡浩巳

H23年度第1回EBLM委員会

日時：2011年1月8日(金)13:30～16:20

場所：順天堂大学本郷キャンパス 11号館(セン
チェリータワー) 南側16階会議室

出席：石田・市原・稲田・片岡・佐藤・西堀・
三宅・吉野・(オブザーバ)小柳・山下

○報告事項

(1)市原委員長より、今秋の学会期間中に、EBLM
委員会主催シンポジウムとEBLMセミナーの開催が
認められた旨報告があった。

(2)市原委員長のプロジェクトで構築を進めている
臨床検査国際基準値データベースの紹介があった。

・従来のアジアに加え今後ヨーロッパとアメリカが
加わる

・今後は互換性を確保した複数施設での測定値を収
集する

・リアルタイム統計処理ツールを備えたデータベ
ースをWebで無償公開する

○審議事項

(1)「EBLMのための統計・情報処理技術の実際」
出版の企画について議論し、以下の方針に沿って各
章の担当者がさらに案を練ることになった。

・ターゲットは臨床研究の統計処理に悩む臨床医と、
検査データの解析法に興味を持つ検査技師におく

・基本技法はゆったり頁数を取り、応用技法は紹介
レベルとする

・実用性と分かりやすさを追求し、1頁に2つか3
つオリジナルのイラストを入れる

・来年3月の出版を目指す

・ターゲットを意識して内容の絞り込みと記述レ
ベルの設定を行う

・各方法論について実際的なサンプルを用いた適用
例を提示する

・読者のニーズに応じたナビゲート機能を設ける

・各章に読者に訴えるような「～を～するには」な
どのハウツー的な表題をつける

(2)シンポジウム「EBLMの過去・現在・近未来」
の企画について以下のような意見が出され、これら
を基に各シンポジストが学会の抄録提出期限をめぐ
りに案をまとめることになった。

・EBLMとは何か、という問いに対しては、臨床の
コンテキストでの検査の有用性を臨床側を巻き込ん
で科学的に追求する、という視点と、検査領域で独
自に臨床的に価値のあるデータを作る努力する、と
いう視点がある

・臨床検査の領域だけに閉じた議論とならないよう、
臨床とタイアップする姿勢をもっと打ち出したい

・システムティックレビューの限界とその先の展望
という視点を入れたい

・診断の際の検査オーダーをナビゲートするような
役割の追求に言及したい

・EBM以前の自動診断システムについてもEBLM
の源流と位置づけて言及したい

・最近症例対照研究で頻用されるようになった傾向
スコアについて紹介したい

・集客を考え、副題を「次世代の臨床支援に向け
て」、「EBM時代におけるEBLMへの潮流」を
「ポストEBM時代におけるEBLMへの潮流」など
としてはどうか

(3)EBLMセミナーの企画について議論し、以下
の方針に沿って委員長がとりまとめることになった。

日本臨床検査医学会ニュース

- ・ 昨年の企画の踏襲を基本とするが、クラスター分析は省く
- ・ 分散分析，重回帰分析，方法間比較を中心に実践的な内容とする
- ・ 各項目の担当講師を今後調整する
- ・ 今回は補助人員の旅費負担が軽いため受講料は千円程度とする

F. 検査項目コード委員会(村田満担当理事)

平成 22 年度第 3 回検査項目コード委員会(第 109 回項目コード統一検討会同時開催)議事録

日時：平成 22 年 11 月 17 日(水)16:30~17:20

場所：日本臨床検査医学会事務局会議室

出席者：村田満(委員長)，三宅一徳，石黒厚至，井上勉，塩田 晃三，山田悦司，岩崎真司(各委員)

冒頭，村田委員長より前回当委員会にて確認された検査名称・項目名称の統一検討について，JCCLS(日本臨床検査標準協議会)用語委員会と協力して進めていくことが報告された。

議題

1. 前回議事録の確認

前回(9月10日)の平成22年度第2回当委員会(学術集会内)議事録内容について，異議の無いことが確認された。

2. 検査方法名称の統一について

石黒委員より，検査方法標準名称の素案および診療報酬点数表との紐付け資料が提出され，それに基づいて説明がなされた。基本的な方向としては，診療報酬点数表収載検査項目の検査法について，原理の違いが識別可能な名称を定義し，それに基づき JLAC10 測定法コードの見直しを行うこととする。検討の結果，今回の資料を現段階における当委員会の検査方法標準名称素案とすることが確認され，今後当資料を基に検討を進めていくこととなった。

3. 検査項目コード委員会への質問対応報告

本年9月，10月にメーカーから日本臨床検査医学会検査項目コード委員会へ寄せられた JLAC10 関連の質問1件とその回答が報告された。

G. 遺伝子委員会(宮地勇人 委員長)

1. 「ゲノム薬理学を適用する臨床研究と検査に関するガイドライン」の公表について

- ・ 委員会：ファーマコゲノミクス(PGx)ガイドライ

ン共同策定委員会(日本臨床検査医学会，日本臨床検査標準協議会，日本人類遺伝学会，日本臨床薬理学会，日本 TDM 学会の5 学術団体)

・ 目的：ファーマコゲノミクス(PGx)検査運用指針の公開を踏まえて，治療を含めた臨床利用のためのガイドラインを関連学会共同で策定。

・ スcope：①日常診療(保険診療，先進医療)，②臨床研究(探索的，有用性確認)，

③治験，市販後調査，④副作用報告(義務)

・ 作成作業：日本臨床検査医学会の遺伝子委員会での詳細な議論を踏まえ，厚生労働省医薬食品局安全対策課，審査管理課 PMDA，厚生労働省大臣官房厚生科学課，製薬企業からの意見を反映。

・ 公表：策定作業が終了し，各学会の承認手続きを終了し，12月16日に厚生労働省の記者クラブにて公表した。

2. 「PGx 検査の運用指針の改訂版」の公表について

日本臨床検査医学会，日本人類遺伝学会，日本臨床検査標準協議会の3 学術団体にて改定作業が終了し，各学会の承認手続きの上，12月8日に公表した。

3. 日本医学会「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」の公表について

作成委員会(第3回)会議開催

・ 日時：12月10日13:30-17:00

・ 場所：東京女子医大南別館1階会議室

・ 進捗状況：各学会・診療分野の遺伝学的検査をカバーする原則部分のガイドラインを目指して文章の最終的な修正を行った。

・ 公表：2011年2月 日本医学会から公表(HP 掲載)した(臨床病理59巻3号に掲載)。

4. 遺伝子分析科学認定士制度(日本臨床検査医学会/日本臨床検査同学院)について

1)更新試験の準備

対象者：第一回受験者

開始時期：2012年～

試験方法：e-learning，研修

2)上級資格の準備

第1章 目的

第1条 本制度は遺伝子分析科学分野における高度な専門知識および技術に対応できる遺伝子分析科学技術者の育成を図り，遺伝子分析または遺伝子関連検査の発展・普及を促進することを目的とする。また，遺伝子分析法の技術水準の向上とその標準化を

普及させ、良質な遺伝子分析結果を提供する。これにより、国民の健康と科学技術の発展に寄与することを目的とする。

第2条 一級遺伝子分析科学認定士は動物、植物、微生物、食品等全ての生物および由来物質を検査対象とする遺伝子分析技術者を対象とする。

3) 名称の検討：一級遺伝子分析科学認定士

5. 委員の追加

八幡英夫(ロシュ・ダイアグノスティックス(株))
八幡委員の追加が報告され、承認された。

3. 第58回日本臨床検査医学会学術集会報告

(小出典男 会長)

第58回学術集会(小出典男会長)について、平成23年11月17日(木)～20日(日)に岡山コンベンションセンターで開催予定であることが報告された。

4. 第59回日本臨床検査医学会学術集会報告

(一山 智 会長)

平成24年11月29日(木)～12月2日(日)に国立京都国際会館で開催予定であることが報告された。

5. 名誉会員、功労会員、評議員の推薦について

(矢富裕 総務理事)

9月15日締切で各支部より各資格要件を満たす名誉会員、功労会員、評議員の推薦依頼がなされた。なお、評議員候補者の定員は支部正会員の約10%で、県および所属機関毎で偏りのないように考慮のうえ推薦いただくよう依頼された。

6. 第61回(平成26年度、2014年)学術集会長の推薦について(宮澤幸久 理事長)

第61回学術集会長(2014年)について9月15日締切で、各支部からの推薦依頼がなされた。

7. 認定試験日程等について(村田 満 理事)

臨床検査専門医認定試験は、2011年8月6～7日(土日)に慶應義塾大学医学部で実施予定であり、実施要領が臨床病理2月号、ホームページで公開していること、そして、臨床検査管理医講習・認定試験は、2011年9月11日(日)に慶應義塾大学医学部で実施予定であり試験要領等は6月初旬にホームページに、臨床病理5月号に掲載予定であること、なお、

講師には、山田俊幸先生(自治医大)、三宅一徳先生(順天堂大)、佐守友博先生(日本医学臨床検査研究所)をお願いしたことが報告された。

8. 役員選挙について(宮地勇人 選挙管理委員長)

平成24～27年度の理事長、理事、監事選挙について、2011年3月18日(金)に開催された委員会議事録と役員選挙日程の資料により、立候補方法と選挙方法、選挙日程が報告された。

9. 60周年記念事業準備状況報告

(高橋伯夫 副理事長)

当会は、2011年11月20日で60周年を迎えるため、岡山の学術集会で記念式典を行う予定であることが報告された。

10. 顧問の契約について(宮澤幸久 理事長)

平成23年度の顧問契約について、弁護士は引き続き古川俊治弁護士にお願いし、会計顧問は、酒井富雄先生に代わり消化器外科学会の会計を担当されている蛤谷国男税理士にお願いすることが報告された。

11. 各種送金について(支部活動費、専門医試験費用、学術集会補助金、顧問料)(村田 満 会計理事)

平成23年度の支部活動費、専門医試験費用、学術集会補助金、顧問料等の送金予定について報告された。

12. 日本専門医制評価・認定機構報告

(宮澤幸久 理事長、村田 満 理事)

1) 専門医研修施設調査での研修施設訪問について

平成23年度に機構ではパイロット調査を実施するにあたり、当会より10施設を推薦し、その施設には調査票が配付され回収されているが、その内の一施設の慶應大学病院に訪問調査が行われたことが報告された。

2) 新たな専門医制度について

学会が認定する専門医制度から第三者中立的機関の日本専門医機構(仮)が認定する専門医制度に転換する予定であることが報告された。

3) 専門医制度推進事業報告会

平成23年3月9日に、当報告会が開催され、フ

日本臨床検査医学会ニュース

ランスの医学教育と専門医制度、ACGME へのサイトビジット、研修施設調査について報告があったことが報告された。

13. 第 28 回日本医学会総会の開催について

(矢富 裕 理事)

本年 4 月に開催予定だった第 28 回日本医学会総会は、今回の東日本大震災のため実施のあり方を見直し、開催形態について、直接参加ではなくインターネットや DVD を活用して開催することとし、事前登録者には講演内容を収録した DVD を配付する、そして、事前登録者には、日本医学会総会参加のより各学会で取得可能な単位を認めることとし、当会でも専門医更新時の単位(5 単位)を認めることが報告された。

14. 認定輸血検査技師制度審議会、医療関連サービス振興会への委員推薦について

(矢富 裕 総務理事)

- 1) 認定輸血検査技師制度審議会委員について
宮地勇人先生が辞退されたため、大谷慎一先生(北里大)に交代したことが報告された。
- 2) 医療関連サービス振興会
衛生検査所調査指導中央委員会 医療関連サービスマーク(衛生検査所業務)「チェックリスト改定」検討のワーキンググループ委員の推薦依頼があり佐守友博先生を推薦したことが報告された。

15. その他：特になし

【審議事項】

1. 平成 22 年度事業報告・会計収支決算報告について(宮澤幸久 理事長, 村田 満 会計理事)

事業報告書、貸借対照表、損益計算書、損失処理案、監査報告書が提示され、事業報告については宮澤幸久理事長から報告、会計収支決算報告については村田満会計理事から説明があり、中原一彦監事、一山智監事より監査報告があり承認された。

2. 平成 23 年度役員について(玉井誠一 理事)

1) 常任理事辞退・選任について

昨年 12 月に持ち回り理事会で承認されていた、玉井誠一先生の辞退、矢富裕先生の常任理事選任し

総務理事を、また、現常任理事の村田満先生には庶務理事から会計理事を、そして米山彰子先生には総務理事から庶務理事を担当していただくことが再度報告され承認された。

2) 理事の退任・選任について

東北支部理事の荏原順一先生が任期満了(4 年)のため退任し、賀来満夫先生(東北大)が新たに支部理事として選任すること、そして、宮澤幸久理事長の在任期間の本年 1 年間、指名理事として藤田清貴先生(千葉科学大)と横田浩充先生(東京大学病院)を選任し、藤田先生には学術担当、横田先生には遺伝子担当をお願いすることが報告され承認された。

平成 23 年度役員名簿は巻頭に掲載。

3. 「東日本大震災対策委員会」アドホック委員会の設置について(宮澤幸久 理事長)

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災発生にあたり、被災地(岩手、宮城、福島)の診療所等における医療の一助として POC 関連機器の貸与、試薬の無償提供(寄付)を円滑かつタイムリーに実施するため、一時的に東日本大震災対策委員会を発足すること、委員会委員(案)が報告説明され承認された。

【担当理事】

メ谷 直人(国際医療福祉大学熱海病院)

【委員長】

坂本 秀生(神戸常盤大学保健科学部)

【委員】

大花 昇(福島県立医科大学医学部附属病院)

岡 尚人(ラジオメーター社)

奥田 優子(東邦大学医療センター大森病院)

小林 隆(栄研化学)

後藤 健治(岩手医科大学医学部附属病院)

合田 隆(シスメックス社)

残松 直樹(アークレイ社)

長沢 光章(東北大学病院)

箕輪 正和(日本衛生検査所協会)

山田 修(岡崎市民病院情報管理室)

山崎 家春(井上記念病院)

【顧問】

諏訪部 章(岩手医科大学)

4. 東日本大震災義援金支出について

(宮澤幸久理事長)

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により犠牲者及び行方不明者が多数出ていること、また震災現場では懸命の救助活動が行われているため、当会としても支援活動の一環として 1000 万円を義援金として寄付する提案があった。これについて、適切な金額、学術団体として最も適切な対応、臨床検査に関係した施設や会員で被災した方への支援、当会の臨床検査に関連したものへの支援などが望ましいのではないかという意見が出され、まず東日本大震災対策委員会での機器や試薬の輸送費や交通費など必要になったときに支出することを主として、その他、必要な場合に協議して支出することが承認された。

5. 第 9 回特別例会の開催中止について

(中原一彦 特別例会長)

2011 年 4 月 16 日(土)、東大鉄門講堂で開催が予定されていたが、東日本大震災の影響により第 28 回日本医学会総会が参加をする開催は中止となったため、分科会である第 9 回特別例会(第 68 回関東甲信越支部例会)も開催中止としたことが報告され、承認された。(臨床病理 59 巻 3 号巻頭に掲載)

6. 選挙に係わる細則の一部改定について

(宮地勇人 選挙管理委員長)

選挙管理委員会を開催した際に、選挙に係わる細則に則り選挙方法などを検討した際に、文言で統一すべき箇所があったため、その改定の提案があり説明のうえ承認された。

7. 臨床検査管理医制度の一部改定について

(村田 満 理事)

臨床検査管理医の受験資格に、日本専門医制評価 認定機構加盟学会の専門医、認定医あるいは日本医師会産業医資格を有するという条件があるが、これに対して救済措置の希望があったため、臨床検査専門医審議会で協議し、これを有さない場合は、当会の学術集会、特別例会、支部総会 例会何れかに合計 4 回以上出席すれば受験を認める規定を追加したことが報告され、承認された。

8. 評議員再任結果について(矢富 裕 理事)

評議員再任審査結果について、単位を満たした方 87 名、現在の再任単位の学術集会 2 回の参加のところ細則改定が一昨年 8 月だったため 1 回参加でも認める救済措置で単位を満たした方 4 名で、この 91 名は再任が承認された。

単位不足者 3 名、数回連絡するも書類未提出者 2 名、評議員辞退者 3 名については、再任単位の条件を満たさないため、本年度から正会員となることが承認された。

9. 第 12 回 ASCPaLM (京都 2012/11)開催と ASCPaLM 会長選任について

(高橋伯夫 副理事、宮澤幸久 理事長)

2012 年 11 月に、第 12 回 ASCPaLM が京都(第 58 回学術集会と同時開催)で開催されること、また、会長として ASCPaLM のプレジデントとなっている高橋伯夫先生をお願いすることについて報告され、承認された。

10. その他(矢富 裕 総務理事)

次回以降の理事会日程は、平成 23 年度 第 2 回：6 月 18 日(土)、第 3 回：8 月 21 日(日)、第 4 回：10 月 22 日(土)、第 5 回：12 月 17 日(土)正午から開催予定であることが報告されたが、当初第 3 回理事会は 8 月 20 日(土)正午からの開催で予定していたが、JCCLS 学術集会のために変更した説明があった。しかし、当日は同学院の理事会が予定されているため協議され 8 月 19 日(金)15 時～18 時で開催することとなった。なお、臨床検査専門医 管理医審議会も、当日 13 時～14 時 30 分に開催することとなった。

一般社団法人日本臨床検査医学会

平成 22 年度に係る定時社員総会 だより

日 時：平成 23 年 3 月 27 日(日) 15:30~16:30

場 所：学士会館 2F 202 号室

東京都千代田区神田錦町 3-28(〒101-8459)

TEL: 03-4212-6321

出席者：社員(評議員)26 名, 名誉会員 2 名,

功労会員 3 名

委任状：142 通

宮澤幸久理事長が、議長となり、定時社員総会は、社員出席者数と委任状数が過半数を越えるため当会は成立されることが報告され議事が進められた。

会議の目的事項

決議事項

第 1 号議案 平成 22 年度事業報告および計算書類承認の件(宮澤幸久 理事長, 村田 満 会計理事)

当議案について、事業報告書、貸借対照表、損益計算書、損失処理案、監査報告書が提示され、事業報告については宮澤幸久理事長より報告説明がされ、計算書類については村田満会計理事より説明がなされ、中原一彦監事ならびに一山智監事より監査報告

があり、承認された。(決算書は後頁に掲載)

第 2 号議案 常任理事 理事選任の件, 理事退任の件(平成 23 年度役員)(宮澤幸久 理事長)

指名理事の玉井誠一先生が自己都合により辞退すること、矢富裕先生の常任理事への選任、荻原順一東北支部理事の退任、賀来満夫先生の東北支部理事の選任、藤田清貴先生および横田浩充先生 2 名の指名理事選任について、報告され、承認された。(平成 23 年度役員名簿は巻頭に掲載)

特別議案 東日本大震災義援金の件(宮澤幸久 理事長)

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、多数の死者、行方不明者があり、また、救済、復旧等の支援のため、当会として当初 1000 万円の義援金を寄付することが提案されたが理事会において協議され、まず、東日本大震災対策委員会での活動にあたり、機器や試薬の輸送費や交通費などで必要になったときに支出することを主とし、その他、必要な場合に協議して支出することが承認されたが、社員総会でも臨床検査に関係することに対して使用し援助していくことが承認された。

＜第1号議案＞
計算書類の承認

事業報告書

平成22年1月1日から平成22年12月31日まで

I 事業の概況

1 事業の経過及び実績

1) 社会公共性への取組み

日本臨床検査医学会は一昨年、一般社団法人へ移行し、積極的に社会公共性を意識した活動を展開いたしております。臨床検査は、診断や治療を実施するために必須のものであり、医療の根幹をなすものであるという中医協の認識通りには評価を受けていない現状に鑑み、学術集会等での臨床検査の社会的役割について啓発活動の継続、各種ガイドライン・指針の策定、臨床検査の臨床的価値・社会的有用性に関する客観的データの提示と提言などを通じて、臨床検査の視点から日本の医療の質向上に寄与しております。

これらの努力は、平成22年度の診療報酬改定における臨床検査関連加算の拡充をはじめとして、着実に成果となって現れています。さらに、本学会は、日本専門医制評価・認定機構から認定された基本領域学会のひとつとして、社会から求められている日本の専門医制度の確立に向け、臨床検査専門医卒後研修評価法の作成、公表や、認定試験の改善を行っており、平成22年度からは、生理検査に関しても試験内容を充実させています。

また、医学教育の場で臨床検査値の全国統一的判断を可能にすることで、診断学教育の効率化と標準化に資することを目的として、臨床検査値の学生用共通基準範囲を設定しました。平成23年に公表予定ですが、医学教育において有効に活用していただけると考えています。

2) 学会活動

学会の事業の一環として、①平成22年9月9日～12日に東京で第57回学術集会を開催、②雑誌「臨床病理」(第58巻)の年12回刊行、③臨床検査に関連する各種委員会の開催、④「臨床検査専門医」「臨床検査管理医」試験実施など、幅広い活動を展開しました。

第57回学術集会においては、学会員を中心に1600名余が参加し、充実した討議が行われました。また、「臨床病理」誌への論文投稿数は、平成20年(52)、21年(53)、22年(59)と着実に増加しております一方、平均査読期間は、平成20年(25.8日)、21年(27.9日)、22年(22.7日)と短縮されています。掲載された論文もたいへん質の高いものであり、PubMedを通じて、世界中に発信されています。

2 対処すべき課題

1) 学会活動の活性化

社会の発展を支える人々の健康増進と疾病予防、疾病の早期発見・治療に有用な臨床検査の開発を支える臨床検査医学の研究成果を得るために、学会活動を更に活性化する必要があると考えています。学会賞や、学術推進プロジェクトによる社員の研究活動の推進とともに、次世代の臨床検査医学の研究を担う若手研究者の育成も急務です。臨床検査関連の国際学会研究発表について補助金を支給することを開始しており、今後、さらに発展させたいと考えています。

2) 社会の求める臨床検査専門医・臨床検査管理医養成

社会に役立つ質の高い臨床検査専門医・臨床検査管理医数の増加が必要と考えています。臨床検査専門医養成については、「臨床検査専門医卒後研修カリキュラム」を平成 19 年に発刊しましたが、さらにより専門医養成教育カリキュラムに改定すべく、教育委員会を中心に検討を続けております。臨床検査管理医については、教育カリキュラムの作成と公表、認定に関わる試験方法の改善について検討を続けております。

3) 社会が求める臨床検査に関わる倫理観の向上

医療倫理の観点から、本学会では、平成 14 年に「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」の見解を倫理委員会が中心となり作成、公表しましたが、「臨床研究に関する指針」が平成 20 年 7 月に全面改正されたこと等を考慮し、平成 14 年の学会見解を見直し、臨床検査に関する研究についての新たな倫理指針を議論してまいりました。平成 22 年 2 月に、倫理委員会が中心となって、新たな「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」の見解を作成・公表いたしました。今後、臨床検査に携わる全ての人々に周知徹底させる必要があると考えています。

3 設備投資の状況

当期における資産の取得状況はありません。

4 事業成績及び財産の状況の推移

(単位:円)

区分	平成19年度 第2期 19.1.1～19.12.31	平成20年度 第3期 20.1.1～20.12.31	平成21年度 第4期 21.1.1～21.12.31	平成22年度 第5期 22.1.1～22.12.31
1 会費収入	40,205,000	38,811,475	39,866,000	42,691,000
2 事業収入	36,205,053	30,933,441	41,239,786	28,030,421
3 助成金収入	12,000,000	12,000,000	10,000,000	12,000,000
4 補助金収入	0	0	0	0
5 寄付金収入	1,000,000	1,500,000	1,000,000	2,500,000
6 事業費	62,600,009	62,688,622	60,805,989	61,502,705
7 管理費	23,306,641	19,542,277	22,672,781	21,359,988
8 当期経常増減額	3,503,403	1,014,117	8,627,016	2,358,728
9 税引前当期利益	3,696,740	88,945	8,074,049	6,309,005
10 当期正味財産増減額	3,021,782	△ 22,904	7,998,518	6,239,005
11 資産合計	151,499,934	167,495,547	175,592,196	164,719,324
12 純資産合計	138,257,994	148,270,678	156,269,196	162,508,201
13 基金	136,964,412	147,000,000	147,000,000	147,000,000

II 法人の概況

1 主な事業内容

本法人は、臨床検査医学（臨床病理学）に関する学理及びその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互及び内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、臨床検査医学（臨床病理学）の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与することを目的として次条の事業を行う。

- ① 総会、講演会、学術集会の開催
- ② 学会機関誌、学術図書及びその他の刊行物の発行
- ③ 学会臨床検査専門医、臨床検査管理医の資格認定に関すること
- ④ 臨床検査技術士、緊急臨床検査士およびその他の臨床検査に係わる資格認定に関すること
- ⑤ 世界病理・臨床検査医学会連合〔World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM)〕ほか内外の関連諸学術団体・協会との連絡並びに協力活動
- ⑥ その他本法人の目的を達成するために必要な事業

2 社員（平成22年12月31日現在）

267名

3 役員（平成 22 年 12 月 31 日現在）

理事	宮澤幸久	（理事長・代表理事）
	高橋伯夫	（副理事長・代表理事）
	米山彰子	
	玉井誠一	
	村田 満	
	矢富 裕	
	宮地勇人	
	諏訪部章	
	登 勉	
	村上正巳	
	前川真人	
	谷直人	
	渡邊直樹	
	荏原順一	
	尾崎由基男	
	北島 勲	
	岡部英俊	
	日野田裕治	
	山根誠久	
監事	中原一彦	
	一山 智	

- 4 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実
記載すべき事項は、ありません。

日本臨床検査医学会ニュース

貸借対照表

平成22年12月31日現在

一般社団法人日本臨床検査医学会

(単位：円)

科目	金額	科目	金額
資産の部		負債の部	
I 流動資産	160,690,923	I 流動負債	2,211,123
現預金	157,858,923	未払消費税	239,600
未収会費	2,832,000	未払法人税	70,000
II 固定資産		前受金	1,587,000
1. その他固定資産	4,028,401	預り金	314,523
(1) 有形固定資産	133,441	負債合計	2,211,123
建物附属設備	263,550		
△減価償却累計額	△ 130,109	純資産の部	
(2) 無形固定資産	305,760	I 基金	147,000,000
電話加入権	305,760	II 一般正味財産	15,508,201
(3) 投資その他の資産	3,589,200	(当期正味財産増減額)	6,239,005
敷金	3,589,200	純資産合計	162,508,201
資産合計	164,719,324	負債・純資産合計	164,719,324

正味財産増減計算書

平成22年1月1日から平成22年12月31日まで

一般社団法人日本臨床検査医学会

(単位：円)

科目	金額	
I 経常増減の部		
(1) 経常収益		
1. 会費収入	42,691,000	
2. 事業収入	28,030,421	
3. 助成金収入	12,000,000	
4. 寄付金収入	2,500,000	85,221,421
(2) 経常費用		
1. 事業費	61,502,705	
2. 管理費	21,359,988	82,862,693
当期経常増減額		2,358,728
II 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
1. 受取利息	210,168	
2. 雑収入	3,740,109	3,950,277
(2) 経常外費用		
当期経常外増減額		6,309,005
税引前当期純利益		6,309,005
法人税、住民税及び事業税		70,000
当期正味財産増減額		6,239,005
正味財産期首残高		9,269,196
正味財産期末残高		15,508,201

日本臨床検査医学会ニュース
監査報告書

平成22年1月1日から平成22年12月31日までの第5期事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告書を作成し、次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

監事は、社員総会その他重要な会議に出席するほか、理事等から事業の遂行の状況について報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、主たる事務所等において業務及び財産の状況を調査しました。また、会計帳簿等の調査を行い、計算書類及び附属明細書につき検討を加えました。

2. 監査の結果

- (1) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、貸借対照表及び損益計算書の記載と合致しているものと認めます。
- (2) 貸借対照表及び正味財産増減計算書は、法令及び定款に従い、法人の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 事業報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (4) 附属明細書は、記載すべき事項を正しく示しており、指摘すべき事項は、認められません。
- (5) 理事の職務遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

平成 23 年 3 月 17 日

一般社団法人日本臨床検査医学会

監事

中島一寿



監事

一山智

